

# 一般シンポジウム S01

日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会企画  
薬学研究のこれから ―基礎と臨床の架け橋―

## Pharmaceutical Sciences in the Future: The Linking Bridge between Basic and Clinical Research

橋田 充<sup>1</sup>, 望月 眞弓<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本学術会議連携会員, 京大院薬, <sup>2</sup>日本学術会議連携会員, 慶應大薬

近年、臨床現場における諸問題や疑問を基礎研究にフィードバックするリバーストランスレーショナルリサーチ (rTR) が、薬学研究における新たな潮流として注目を集めている。日本学術会議 医療系薬学分科会では、これまで rTR をテーマにシンポジウムを開催するなど活動を展開してきた。rTR の意義をより高めるためには、基礎研究から臨床研究へと順方向に展開するトランスレーショナルリサーチ (TR) と両輪となることが望ましい。すなわち、臨床から基礎へのフィードバック研究を行うと同時にさらに基礎研究の成果を臨床へ応用するという rTR/ TR サイクルをダイナミックに展開することが重要と考えられる。本シンポジウムでは、アカデミアおよび臨床現場において本研究領域をリードしている研究者に最新の研究成果をご紹介いただく。また、レギュラトリーサイエンスの観点から本研究領域のあり方についても話題を提供いただく予定である。シンポジストから提供された情報に基づき、基礎研究と臨床研究のブリッジングをキーワードに薬学研究の将来像を議論し、さらなる薬学研究の発展の方向性を探る機会としたい。